

## 令和7年度生成AIを活用した学びのサイクル実証事業実施報告書

学校名

奈義町立奈義中学校

## 1 本事業により目指す子どもの姿

## (1) 目指す子どもの姿

1人1台端末環境を基盤として、生成AIを含む他者と上手に付き合いながら、自らの学びを調整できる生徒

## (2) 生徒・教員の現状

【生徒】授業の振り返りや自主学習ノートの取り組みを通して、自己調整力が育ちつつある。また、1人1台端末環境を基盤とした授業により、授業での端末活用が当たり前になり、情報活用能力も向上している。一方、生成AIの活用に関する基礎知識や家庭学習の定着に課題がある。

【教員】奈義町情報活用能力体系表を意識し、1人1台端末環境を基盤とした授業の実践や家庭学習に取り組んでいる。また、校内研修を通して全職員のスキルアップを図っている。一方、生成AIの活用が一部の教員の校務の活用のみ留まっていることが課題である。

## 2 取組内容

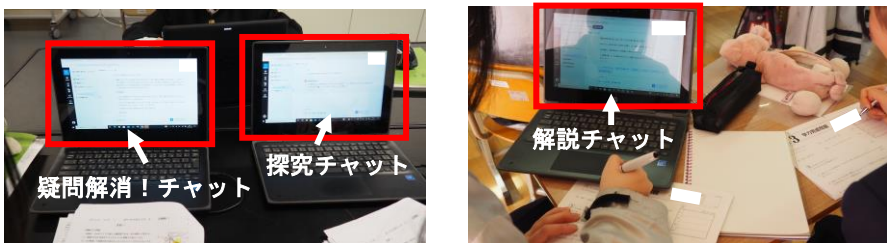
## (1) 生徒の実態に即した4段階の生成AIの活用

## ○取り組みの目的

探究的なモードから解説的なモードの4段階の生成AIのプロンプトを準備し、生徒が自分の実態に応じて選択しながら生成AIを活用することで、生成AIと上手に付き合いながら、自らの学びを調整できるようにし、自走する学びを目指す。

## ○具体的な内容

「探究チャット」「解説チャット」「疑問解消！チャット」「問題集の解説をより詳しく解説してくれるチャット」の4種類を上手に使い分けながら学びを深めていく。



## ○4段階の生成AIについて

- ↑ 探究的 ↓ 解説的
- ＜探究チャット＞  
直接答えを教えることなく、対話を重視して考えを広げたり深めたりすることをサポートする。自分で答えにたどり着くためのアシスタントの役割。
  - ＜解説チャット＞  
問い（画像含む）に対して、直接答えを教えず、比較的確切な解説や説明等を与えてくれる。
  - ＜疑問解消！チャット＞  
質問に対して答えとわかりやすい解説を提供し、関連事項や類似問題も提示する。
  - ＜問題集の解説をより詳しく解説してくれるチャット＞  
問題集の解説を理解しやすいように、より詳しくかみ砕いて説明する。

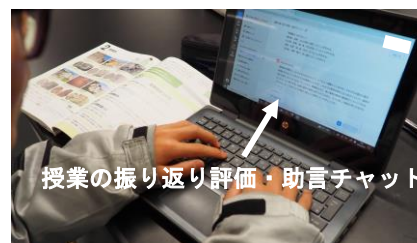
## (2) 質の高い振り返りによる自己調節力の向上

## ○取り組みの目的

生成AIに振り返りに対する評価をしてもらい、生成AIのアドバイスをもとに再度学びを振り返り、自らの学びをより高い次元から俯瞰して捉えさせることで、自らの学びを調整する力の育成を目指す。

## ○具体的な内容

「授業の振り返り評価・助言チャット」に自分の振り返りを評価してもらい、アドバイスをもとにさらに質の高い振り返りを行い、自らの学びを深く振り返らせる。



## 「授業の振り返り評価・助言チャット」のプロンプト

# 指示概要  
以下の中学生が書いた振り返り文を、指定の4つの観点で優しく評価し、共感をもって具体的にアドバイスしてください。

## # 評価視点

1. 今日の授業でできるようになったこと
2. 今までに学習したこととの関連で気づいたこと
3. 授業と授業後の自分の変化
4. 友達から学んだこと

## # 制約条件

- 文章は約200字程度にまとめること
- 対象は中学生であるため、優しい口調で語りかけるスタイルにしてください
- 短所や間違えも肯定的に捉え、励ます言葉を必ず入れること
- アドバイスは生徒の現状を受け入れた共感から始め、その上で具体的な提案を行うこと
- 振り返り文が10文字以内の非常に短い場合は、もっと詳しくかくよう促してください
- 学習内容について一切触れていない場合は、学んだ内容にも言及するよう優しく促すこと

## # 出力例

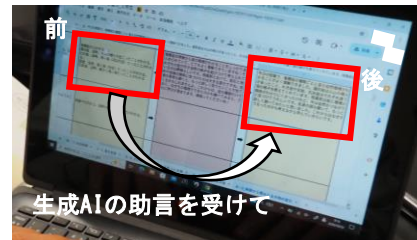
振り返り文:  
「今日の授業で九九の暗記が少しすすみました。前よりも早くかけるようになってうれしいです。友達と答え合わせもして楽しかったです。」

## # 評価とアドバイス:

「今日は九九の暗記が進んで、本当に頑張りましたね！答え合わせを友達と楽しめたことも素敵です。まだ完璧ではありません。少しずつ確実な力がついていますよ。次は今までに学んだ九九の表とも照らし合わせて、さらに理解を深めましょう。これからも楽しく続けていきましょうね。」

## # 出力フォーマット

- 評価とアドバイスを約200字で自然な文にまとめてください。



### 3 生徒・教員・保護者からの評価

#### (1) 生徒からの評価（変容や感想等を含む）

学校独自の実態把握アンケートの結果分析より、

- ①「すぐ調べられる」即時性の高さ
  - ・授業後にすぐ復習できる ・先生がいなくても質問できる
  - ・自分が知りたいところをピンポイントで聞ける
  - 学習の効率が上がり、時間を有効活用できていると思われる。
- ②わかりやすい説明・かみ砕いた解説
  - ・レベルに合わせて説明してくれる ・解き方まで教えてくれる。
  - ・丁寧に要点をまとめて説明してくれる
  - 「ただ答えを出す」だけではなく、理解を助けるサポートツールとして活用されていると思われる。
- ③自分で考える力の向上
  - ・ヒントを出してくれる ・すぐ答えを言わずに考えさせてくれる
  - ・自分でまとめる参考になった
  - 生成AIが理解を助ける役割を果たし、思考力を育てる効果があると思われる。
- ④学習スタイルの変容
  - ・わからないところを生成AIに自然に聞けるようになった ・振り返りに使えた
  - ・視野が広がった ・自分に合った学習方法を見つけれられた
  - 生成AIが単なる道具ではなく、学び方そのものを変える存在になってきていると思われる。
- ⑤生成AIリテラシーの向上
  - ・たまに間違えがある ・質問と違う答えが出される
  - ・上手に質問しないと求めている回答が返ってこないことがある
  - ハルシネーションの存在に気付いたり、プロンプトの重要性を感じたりしていることから、生成AIリテラシーが向上していると思われる。

#### (2) 教員からの評価（変容や感想を含む）

学校独自の実態把握アンケートの結果分析より、

- ①「0→1」を生み出すより「1→100」に広げる相棒としての活用
  - ・生成AIに全てを頼ってしまう生徒も中にはいる
  - ・ある程度自分の考えがある状態で使用した方がいい
  - 生成AIを「思考の代わり」ではなく「思考の補助」と位置付けることが大切であると考える教員が多数である。
- ②最大の課題「鵜呑み問題」
  - ・質問の回答がズレていた、教科書の該当範囲を超えていたりする
  - ・正誤判断には知識が必要 ・批判的思考力には労力がかかる
  - 生成AIの回答が正しいか生徒に判断させるためには、ある程度の知識が先に必要であったり、批判的思考力を伸ばしたりしていく必要があると考える教員が多い。

#### (3) 保護者からの評価（気付きや感想を含む）

学校独自の実態把握アンケートの結果分析より、

- ①自主的な家庭学習の増加
  - ・わかりやすくなったといっている ・隙間時間に勉強するようになった
  - ・使いやすいと言っている ・わからないところをすぐに調べるようになった
  - 生成AIを導入してから自主的に家庭学習に取り組む生徒が以前に比べて増えてきていると考えられる。
- ②家庭での認知度の低迷
  - ・生成AIの導入を知らなかった ・使っている認識がなかった
  - お便り等で家庭にお知らせをしたが、依然、家庭での生成AIの認知度が低いことが考えられる。

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

学校独自の実態把握アンケートの結果分析（下図を参照）より、生成AIの学習への有用性を83.3%の生徒が感じていることがわかる。また、2学期末と3学期末の使用状況を比較すると、授業での活用、家庭学習での活用の両方で、肯定的回答（「ほぼ毎日」「週3回以上」の合計）の割合が上昇している。次に、生徒の自由記述の内容を分析すると、生成AIの利点として、いつでもどこでも自分のタイミングで活用できること、自分のレベルに合わせてわかりやすく解説してくれること、自分で考える力や答えを導き出すプロセスなどの思考力が身に付くことなどが挙げられている。これらは、本校が実施してきた、教師主導で生成AIの有用性を示し、生徒がいつでもどこでも使いたいときに生成AIを使える環境を整備し、生徒に生成AIの活用を委ね、生徒を信じて自走させてきたことが成果として現れたのではないかと考える。また、「探究チャット」「解説チャット」「疑問解消！チャット」「問題集の解説をより詳しく解説してくれるチャット」の4段階のレベルを用意し、自分の状況に応じて選択できる自己決定の場を用意したことも成果として現れたと考えられる。他にも、生徒の自由記述の内容から、生徒の学習スタイルの変容や生成AIリテラシーの向上などが見られる。これは、日々の授業の振り返りの評価として「授業の振り返り評価・助言チャット」を用意し、生徒が自身の学びを俯瞰して捉え、自らの学びを調整する力が育まれてきたからだと考えられる。また、生成AIの活用での失敗体験（具体的には、ハルシネーションに気付けなかった経験や思い通り回答が得られなかった経験など）から学び、生成AIの使い方に変化が表れてきているからだと考えられる。以上のことから、生成AIの活用は、生徒にとって学習のサポートのみならず、生徒の学習スタイルの変容や生成AIリテラシーなどの他の能力向上にも寄与し、自らの学びを調整できる生徒の育成につながったのではないかと考えられる。

#### (2) 課題

学校独自の実態把握アンケートの結果分析（下図を参照）より、活用の二極化が顕著になってきた。また、家庭学習での活用は増えてきたものの、月1回程度の割合が依然と高いままである。自由記述の内容と合わせて分析すると、上手に活用できていない生徒ほど、生成AIの回答を鵜呑みにしたり、問題の答えのみを求めたりする傾向が強い。また、生成AIの保護者への認知度が低いことで家庭での協力が得られていないことも原因ではないかと考えられる。これらのことから、生成AIは「ただ答えを教えてくれる道具」ではなく、「理解を助けてくれるサポートツール」へと生徒の意識を改革することや生成AIの回答の正誤判断に必要な知識の習得、批判的思考力の向上が課題である。また、家庭と学校が協力して生成AIの活用をサポートしていく体制を整えていくことも課題である。

